

# 歴史散歩

64

## 多気城下絵図

かつて伊勢国司であった北畠氏が本拠を置いた美杉町多気地区。その北畠氏の城下の様子を描いた大きな絵図が、美杉ふるさと資料館に展示されています。

この絵図は「多気城下絵図」と呼ばれ、縦104cm、幅220cmの大きなものです。多気の町並みと周辺の山々が描かれており、図の中心には北畠氏の館（御殿）の建物や庭園、その後ろの山には霧山城が見えます。城下にはたくさんさんの寺院や家臣の名前が記載されており、「魚屋町」や「呉服屋町」などの町並みがうかがえる表記もあります。また多気への出入り口となる峠には番所が描かれており、比津・飼坂・白口など八力所の番所が見られます。

残念ながらこの絵図は北畠氏が滅亡した後描かれたものであり、当時の城下の様子を正確に描いたものではありません。絵図の霧山城には本来はなかった石垣や櫓などが描かれており、後の時代に想像を交えながら描かれたことを示しています。このような正確な部分もありますが、北畠氏の城下の様子を考える上で手掛かりとなる貴重な資料です。

江戸時代の国学者として有名な本居宣長は、自分の先祖が北畠氏の家臣につながると考え、多気を訪ねて絵図を見たところ「菅笠日記」に記しているほか、「多気之図」と呼ばれる城下絵図が本居宣長記念館に残されています。このほか、現在県内を中心に40例ほどの多気を描いた絵図が知られており、繰り返し写されながらさまざまな写本が残されたようです。これらは縦横の比率や建物などの描き方によって大きく3種類に分類できます。

多気城下絵図を集め、9月3日(土)から10月10日(月)まで展覧会を開催します。この機会にぜひ、ご覧ください。(月曜休館、祝日の場合はその翌日)



※JR名松線は、家城～伊勢奥津間はバスによる代行輸送を行っています。



美杉ふるさと資料館所蔵 多気城下絵図